



ロータリーは機会の扉を開く

2020-21年度
国際ロータリー会長

ホルガー クナーク 氏

第2600地区ガバナー 成田 守夫

国際ロータリー第2600地区 上田六文銭ロータリークラブ Rokumonsen Rotary Club

【事務局】〒386-0025 長野県上田市天神4-24-1 上田東急REIホテル 3F
TEL 0268-25-6000 FAX 0268-25-6002 <http://www6.ueda.ne.jp/~ueda6rc/>
《例会日》毎週火曜日 12:30~13:30 《例会場》上田東急REIホテル 2F 《創立》1997年2月18日

●会長 中澤 信敏 ●幹事 吉田 穰 ●会報委員長 合原 亮一 ●副委員長 齋藤 仁 ●委員 宮原 宏一/湯原 剛

会員の皆様からの寄稿



コロナで考えたこと

会報委員長 合原 亮一君

コロナのお陰で生活が色々変わりました。困ったことが多いのですが、もっと早く出来ていても良かったと思うこともありました。良かったことの例が在宅勤務やオンライン会議です。ワークライフバランスも取りやすくなり、会議のための移動も必要なくなり、スケジュール調整もやりやすくなりました。

もちろん実際に会ったほうが良いことも沢山あります。でも、これまでは遠方の友人などとは会うことができないものだと思い込んでいましたが、オンラインで何人かで集まる、ということが増えてきました。こうしたことは、コロナが終息しても、続いていくのではないかと思います。家から出られないのではなく、出る必要がなくなる。電話で済ませていたことも、オンラインで顔を見ながら普通になるかもしれません。

テレワークが普通になれば、オフィスは小さくても良くなりますが、自分の家には仕事ができるスペースが必要になります。狭い家の人は困ると思いますが、よく考えてみると、家でゆっくり本を読めるぐらいのスペースはそもそも必要だったのではないのでしょうか。家に居場所がなくていつも会社にいる、という人生は、あまり良い生き方ではありません。

そういう自分も、本なんか読む暇はない、という生活でしたが、出張がなくなったお陰で、時間に少し余裕ができました。本を少し買いましたが、残念ながら本以外にも後回しになっていたことが沢山あり、読むことができたのはほんの一部です。その分、家の補修など、何年も後回しになっていたことが少しずつできています。

鉄道会社は通勤客が減って大変な減収かもしれま

せん。その分 GDP も下がって、経済が収縮してしまいます。コロナでやりたいことができず GDP が下がるのは困りますが、コロナが終わってもやらずに済むことは、もともとやる必要がなかったことです。通勤ラッシュもその一つかもしれません。

うちの社員も「在宅勤務なんて絶対無理です」と言っていたのに、コロナになった途端に全員在宅勤務ができるようになりました。そればかりか、在宅勤務を続けたいという意見が圧倒的です。

もちろん週に何日かは出勤する必要がありますし、電話番の人も必要です。でも電話番も、在宅の人に順番に転送する仕組みが提供されればいりません。印鑑を不要にしようという動きと同じです。すぐできなくても、間も無くできるようになるでしょう。

こうした変化で、GDP が下がるとすると、一体 GDP は何を測っていたのかと考えてしまいます。

これまでは「大きいことはいいことだ」で、量が多いほど良く、食べ物も地球の裏側から輸入して消費してきました。ところがアメリカではコロナで流通が難しくなり、大都市での農業が脚光を浴びているという記事が Forbes に載っていました。
(<https://forbesjapan.com/articles/detail/38858>)
流通の距離が短いことが強みになったのです。

実は「移動が少ない」ことは、これからの地域を考える上でも非常に重要なことです。新しい道路ができて遠くに行くのが便利になることは素晴らしいこととされていましたが、ヨーロッパの都市計画では「移動距離が短くなる」ように計画するのが普通だそうです。そうすることで、市街地のスプロール化を防ぎ、中心市街地の活力が維持できるそうです。

コロナは「成長」とは何かを見直して、どのような社会を構想するかを考えるきっかけを与えてくれたように思います。考えるには知識が必要なので、もう少し時間を作って、本を読むようにしたいと考えているところです。でも目の前の課題も沢山あるので、少し先になりそうです。





会長挨拶



会長 中澤 信敏君

みなさんこんにちは。

いかがお過ごしでしょうか。コロナ感染症も第3波のピーク時よりもだいぶ落ち着いてきたように感じます。ただ、全国的にも緊急事態宣言が延長される地域もあり、医療機関の逼迫もまだまだニュースで話を聞きます。

県内他地域では新規感染者も落ち着き、入院者”0”の地域もある中で、当地上田地域はなかなか新規感染者が”0”にはならず、しかも感染経路が不明の感染も続いているため、例会再開のきっかけも慎重にならざるを得ません。皆さんの中にはそろそろ再開も良いのではないかと思われるかもしれませんが、もうしばらくお待ちください。

さて、今日はコロナ禍で先送りされた私の身近にあったビッグイベントをお話しさせていただきます。

1つは2020年10月に印刷工業組合の全国大会が長野で開催予定でした。2年に1度の開催で参加予定者は全国から600名を迎え入れる予定でいました。私はその懇親会と翌日のエクスカッション担当でアトラクションの企画、食事内容、シナリオ、までの準備を進行していたのですが、このコロナの状態で開催が決定され、その開催時期も未定の状態が続いています。この大会の準備もだいぶ前から行っており、2018年に行われた高知大会へ参加し状況を体験し、参加者に向け2020年長野大会への誘致を盛大に行ってきたところでした。

もう1つは、地域づくり団体全国研修交流会と言うNPO法人、地域活動団体、国・都道府県・市町村などの行政職員など地域活動を行う実践者たちが全国から2泊3日で集まる大会です。本来であれば今年の2021年秋に長野県が受け入れる予定でした。こちらも去年の2020年開催予定の長崎大会が延期となったため、続いて予定していた長野大会も同様に延期となっています。こちらの大会も2019年に開催した兵庫大会へ参加し、豊岡で実践者に出会い、神戸で主催者たちと夜通し交流をして様子をうかがい体験し準備をしてきていました。この大会は、地域活動を実践している猛者たち約300人が集まる機会、この機会に長野県の地域活動も活性化させる良い機会だと気持ちが入っていた事業でした。

このようないつもと異なる事業を1つの組織の中で進める時には、それなりの騒動が発生します。まずは受入れの合意形成を取るまでひと騒動があります。無事開催が決まったあとの準備を進める途中でもいくつかの調整や合意を取りながら進めるのですが、たくさんの価値観を持った人たちがいる一つの目的に進んでいくのですから、好き勝手なことを言う人もいれば、足を引っ張ることしかしない人もいたり、途中で組織の中核を砕くようなクーデター的な人事案が出されたり、中々すんなりいかないです。

このような経過を経た上で、思った通りの内容で終えることができると、大変なことを一緒に乗り越えた仲間間で信頼関係が非常に強いものになり、それに関わった人だけが味わう達成感を感じることができます。また、その成果が何年か経った時に別な形で自分の知らないところで派生してきたことを見ることができた時には、良い後味を感じます。

3つ目の遠退いたことはやはりオリンピックです。私は女子サッカー準決勝のチケットを確保していました。そのオリンピックも延期し、開催日は決まってはいるものの今のコロナの状況から果たして延期した予定通り実施できるのか不安です。オリンピックは、コロナウイルスが無い状況下で予定通り開催されれば、たくさんの感動とドラマと交流が生まれ、世界中の関わった人たちが達成感と、スポーツ以外での様々な成果が実を結んだのだと思います。

今は、森会長の発言が残念でなりません。リーダーを変えるような声も世論としてメディアが取り上げたりしますが、関わっている人たちはただでさえ先行き不安の中、これ以上目的達成以外の問題は抱えたくない気持ちでは無いかと同情してしまいます。

感染症が収まらない中で、年度予算の執行期限や様々なタイミングでリモートやオンライン活用して無理して実施しても本来の目的を達成できないこともあります。今の時期に開催する事業は、目的をもう一度見つめ直し、目的を達成するために何をすべきかよく考え、貴重な機会を焦って中途半端にやり過ごすことが無いよう、先延ばししてでもじっくり実になる事業として実施することも重要かと思いました。

幹事報告 (2/2分)



- RIより
 - ・RI会長より 国際大会バーチャルへの変更のお知らせ
 - ・『平和構築と紛争予防月間』リソースのご案内
 - ・財団室ニュース 2月号

恵送

- ・丸子RC様・・・会報
- ・和光様・・・カタログ

社会奉仕委員会よりお知らせ



- ① シトラスリボンの周知活動の一環として友好クラブの桐生赤城RC様へリボン100ケを送らせていただきました。



- ② 書き損じはがきを切手に交換し、日本ユネスコ協会に送らせていただきました。会員の皆様にたくさんの書き損じはがきをご寄附いただきました。ありがとうございました。

84円切手63枚、20円切手2枚、5円切手1枚、1円切手1枚 計5,338円分

